

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 4 月 7 日現在

機関番号：42698

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730687

研究課題名(和文) 保育者養成における「劇表現指導法」のカリキュラム・モデルと補助教材の開発

研究課題名(英文) Development of a curriculum model and the teaching aid of "childcare contents of the drama expression"

研究代表者

山本 直樹 (YAMAMOTO, NAOKI)

有明教育芸術短期大学・その他部局等・准教授

研究者番号：70586502

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は保育者養成における授業科目「劇表現指導法」および「保育内容(劇表現)」に着目し、その内容や方法、担当講師、教材等に焦点を当て、「劇表現指導法」を中心としたカリキュラム・モデルの検討と指導のための補助教材を開発することである。本研究の方法として「劇表現指導法」の実態調査と、その授業担当者にインタビューを実施した。あわせて「劇表現指導法」の授業実践を通じた授業内容や方法、教材のあり方の検討を試みた。研究成果は、そのモデルには、3タイプあることがわかった。演劇関連科目あり、演劇関連科目なし、単独開講である。作成した補助教材も含めて別刷りの報告書にまとめることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop the curriculum model and the teaching aid of "childcare contents of the drama expression". The method is to perform an opening of the courses and activities in "childcare contents of the drama expression". And I interview the class teachers in charge. And I consider the class contents and method, the way of the teaching materials practically. The result is that there are three curriculum models: one is to link theatre program, two is not to link theatre program, the others is independent opening of a course. A report of the printing excerpts was listed including them and a teaching aid in "childcare contents of the drama expression".

研究分野：表現教育・ドラマ教育・保育者養成

キーワード：教育学 保育者養成 劇表現 カリキュラム 教材研究 領域表現

## 1. 研究開始当初の背景

領域「表現」の劇的な分野での実践や普及は、日本においては玉川大学が先駆的な役割を果たし、『ドラマによる表現教育』『子供のための創造教育』『子供のための劇教育』等の啓蒙的な翻訳本も玉川大学出版部より刊行されている。国外ではアメリカにおいて「クリエイティブ・ドラマティクス」という名称で20世紀初頭に始まり、ウォードや弟子のシックスらによってその専門家が育成をされている。また、英国、豪州、カナダ等でも、近年ではアジアでも台湾、韓国において演劇が導入され、その教員・保育者の養成が行われている。

着想に至った経緯であるが、研究代表者はこれまで保育者養成校において、総合的な演劇発表の指導と並行して、発表を目的とせずその過程に教育的な価値を見いだすドラマ教育を応用した授業「ドラマ(劇遊び)」、「保育内容表現 B (ドラマと空間造形)」の実践も行ってきた。その経験から範囲とすべき内容の検討や、学生の自己表現力やコミュニケーション力の向上を指摘してきた。

カリキュラムに関しては、科研費奨励研究の助成を受けてオーストラリアの「芸術科」の幼稚園から高校までの「ドラマ」のカリキュラムに注目し、段階的に難易度を高めるための評価の観点に関する調査を行った。また、自らの専門学校教員時代の授業内容を総括し、カリキュラム・モデルで範囲とすべき内容や重点項目についての考察を行った。

これまでの研究は実践的な取り組みや海外の先駆的理論の紹介を通して、教育や保育における劇の専門性を確立させることに主眼を置いていたが、本研究はそれらの研究成果を保育者養成のために再構築し、かつ応用的に活用することを目指すものである。

## 2. 研究の目的

保育者養成における「表現指導法」の中にいわゆるごっこ遊びや劇遊びを包括する劇表現があるが、対応授業はあまり開講されておらず、総合的な演劇発表で代用するケースが多い。それは劇遊びという概念が曖昧でその指導法も明確になっていないことに起因しよう。発表の経験も子どもの発達には重要だが、子どもが想像力を使って絵本の世界に飛び込み、全身体的な自己表現を通して自信に繋げようとする、過程としての劇的な体験も重要であろう。本研究はドラマの視点を活かし、学生の現場実践もふまえて、劇遊びやその指導法を検討・整理した上で、「劇表現指導法」のカリキュラム・モデルと保育者養成教員用の補助教材を開発することを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 保育者養成校における授業科目「表現指導法」、中でも特に「劇表現指導法」の実態調査を行う。かつ、その関連として、劇表

現が公教育に位置づけられている台湾において、保育者養成における演劇的授業の調査も行う。

(2) 調査(1)の成果として「劇表現指導法」において自己表現的な経験を学習機会として活かすことを主目的とした15の授業に焦点を当て、その現状をより明らかにするため、その授業担当者に連絡を取り、シラバスでは読み取れない内容を直接伺い、深く掘り下げることを目指しインタビューを行う。

(3) 2013年と2014年に実践する「劇表現指導法」の授業をふり返り、最終課題とその指導のあり方や授業の意義と改善課題を探った上で、他校のシラバス分析や授業担当者へのインタビューで得た成果も活かして、「劇表現指導法」の一つの例としてのシラバス案を作成する。

(4) 自己表現的な経験を学習機会として活かすことを主目的とした授業科目「劇表現指導法」の中で活用する教材(視聴覚教材)や授業運営のための補助教材を検討するにあたっての材料を集めるために、絵本教材『三びきのやぎのがらがらどん』の分析と活用法の検討、靴下人形の制作と活用、学生の思い(メッセージ)を投影した愛好歌の活用を行う。また授業の中で活用するために開発した補助教材をまとめる。

## 4. 研究成果

保育者養成における「劇表現指導法」を含んだカリキュラムに関しては、開講調査や授業担当者へのインタビューを通して3つのタイプがあることがわかった。

演劇関連科目ありタイプ:「劇表現指導法」の他に演劇関連科目あり

演劇関連科目なしタイプ:「劇表現指導法」と「表現指導法」はあるが、演劇関連科目なし

単独開講タイプ:「劇表現指導法」だけで「表現指導法」も演劇関連科目もなし

に関しては、学生が「劇表現指導法」を受講するよりも前の時期に、自己表現的かつ想像的な表現活動を集団で経験する類の授業を開講し、予め、身体表現活動に対するウォーミングアップやその面白さを再認識する機会を意識的に設定している養成校があった。そして「劇表現指導法」の受講後に、その経験を活かす演劇的な授業・舞台発表プロジェクトを設定している養成校もあった。具体的には受講後に音響、照明、舞台美術、宣伝等のスタッフ・ワークも含めたプロダクション運営をしながら子どもや大人を観客とした舞台作品創作、地域や園に出向いての学外出前発表、更なる教材研究、学問的な文献研究等である。数的に言えば「劇表現指導法」の後段階に演劇関連授業を設定している養成校が多かったが、前後で設定されている養成校もあった。そこには「劇表現指導法」を

コアに、その準備と応用へと展開する連続性のあるカリキュラムがあった。非常に理想的な形と言えよう。しかし、残念ながら「劇表現指導法」は必修科目ではないし、たとえ望んだとしても、すべての養成校でそのような形を構築することは難しいであろう。ただ、いつか状況が変わって「劇表現指導法」のような授業を多くの養成校が開講しなければならなくなった場合には、その前後に劇的な要素をもった授業も合わせて設定した方が、内容がより充実することがわかった。別の視点に立てば、現在、総合的な舞台発表をすることが設定されている養成校が多いが、劇づくりの過程を活かした「劇表現指導法」のような授業を事前に開講しておくことで、より連続性のある総合的な表現を通した学びの場がつけられるのではないだろうか。

もう一つ、カリキュラム・モデルを考えるにあたって、と のタイプのように演劇関連科目が他に無い場合があることがわかった。特に の場合は、実習科目との結びつきが強いのが特徴であった。保育者を目指す学生の統合的な学びを念頭に置いて、劇表現の経験が学生にどういう意義をもつかということに常に問いかけていた。これを保育者養成カリキュラム全体の中で考えると、 のタイプの「劇表現指導法」は、扱う内容が領域「表現」の範囲を超え、保育や遊びに関してもう少し幅広い内容をカバーする「教育課程総論」や「保育内容総論」のような役割を果たしていると思えることができるかもしれない。これも養成校の授業としての一つのモデルになり得よう。今回のインタビューを通して、劇表現のもつ役割の幅広さや可能性を改めて認識することができた。実習科目も含めた保育者養成カリキュラム全体の中での「劇表現指導法」の授業は、今後、どのような役割を果たすことができるか。これは本研究を通して浮かび上がった新たな問いである。

教材に関しては、補助教材を作成し、学生のふり返りを授業の中で活かす実践的な取り組みを展開することでできた。パペット等に自分の気持ちを投影させて表現することに更なる可能性を感じることができた。インタビューをした授業担当者のほとんどは、実践的な著書を刊行していた。それらの内容を検討していくことで「劇表現指導法」としての共通的な内容をより明らかにできるかもしれない。授業担当者全員は名人芸と言っても過言でない「技」を有していた。劇表現の指導はその人だからできる、その人にしかできないという現状はしばらく続きそうであるが、「劇表現指導法」の発展を考えれば、それぞれがもつ「技」を理論化し、他の人でも活用できるような形にすることは重要である。

意図したわけではなかったが、授業担当者にインタビュー内容を再確認する中で、今回のインタビューがきっかけで授業を見直す

きっかけになったという話を伺うことができた。見方を変えれば、本研究はお互いの授業を見直す機会を創出し、相互に作用しあうという意義があったとも言える。今回の研究を一つのきっかけにして、「劇表現指導法」の授業担当者でお互いの授業を見合ったり、授業内容について検討し合ったりできる新たな繋がりが構築されるかもしれない。また、連携や共同研究ができるようになるかもしれない。そして、いつか合同研究会等の開催や「劇表現指導法」の授業の意義をシンポジウム等で検討しあったりできるかもしれない。本研究はそのための一つのたたき台のようなものであり、カリキュラム・モデルや授業内容の共通の枠組みを協力しながら構築していきたい。

もう一つ別の視点であるが、「表現指導法」の開講調査の中で、37のオムニバス形式等の授業において、部分的に劇的要素を含んだ「表現指導法」の授業が行われていた。数的には今回対象とした15の授業と比べて多い。全部ではないがその授業担当者を調べたところ、音楽や造形等を専門とする教員の割合が多かった。2013年の全国保育士養成セミナーの際にその担当者数名に授業の実際について聞いたところ、自分の専門を活かして展開しているという回答や、研修等に積極的に参加して演劇的な研鑽を積むことでなんとかこなしているという話を聞くことができた。劇表現を取り扱うことは、その専門家でなければ難しいとは思いますが、現状としてすべてに専門家が配置できるはずはないし、専門外の人が指導するケースがむしろ多い。そうであるとすれば、一つの発想として、演劇を専門としない教員が「表現指導法」において、劇的要素をしっかりと活用できるための方法や内容をわかりやすく提示するという取り組みも、今回のような専門的な「劇表現指導法」のあり方を探ると同様に、領域「表現」の研究を積み重ねていくためには、重要なテーマであることがわかった。

反省点は、当初の計画通りに進まなかったところが多かったことである。保育現場での実践的な試行活動や学生の協力を取り付け、授業時間外に指導実習演習を行おうと考えていたが、開講調査の情報収集やそのデータをまとめる作業に時間を取られてしまい、思うように進めることができなかった。一人で進めることの難しさを感じ、共同研究の重要性を改めて知ることができた。教材の開発についても最初に目指していたような授業用の補助的なハンドブックの作成にまでは至らず、その材料の収集に留まってしまったことは大きな反省点である。

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

山本直樹「保育内容指導法演習(クリエイティブ・ドラマ)」の意義と課題 学生のふりかえりを手がかりに」『こども教育宝仙大学紀要』6, 85-93, 2015

花輪充、山本直樹「保育者養成課程における保育内容「表現」の実証的検討 - プレイメイキングによる学生の自己表現力とコミュニケーション力の育成 - 」『東京家政大学博物館紀要』20, 1-25, 2015

山本直樹「劇的要素を含んだ「保育内容(表現)」の開講状況に関する考察」『有明教育芸術短期大学紀要』6, 87-98, 2015

山本直樹「保育者養成教材としての絵本『三びきのやぎのがらがらどん』」『保育文化学会紀要』1, 投稿中, 2015

山本直樹「視聴覚教育」における靴下人形製作とその作品発表の意義と課題 - 学生によるふり返りの分析を中心に - 」『立教女学院短期大学紀要』45, 105-116, 2014

山本直樹、下川涼子「保育内容(ドラマ表現)」における最終課題の設定とその指導に関する研究」『有明教育芸術短期大学紀要』5, 79-90, 2014

山本直樹「『三びきのやぎのがらがらどん』の絵本に基づく劇遊び実践の再考察 - 多様な先行事例との比較を通して - 」『立教女学院短期大学紀要』44, 53-64, 2013

山本直樹、杉本信、諸井泰子「自作教材研究に特化した授業の実践 - 絵本を題材としたパネルシアターの製作と保育現場での実演を中心に - 」『有明教育芸術短期大学紀要』4, 79-90, 2013

山本直樹「これからの教育活動におけるドラマ教育のもつ可能性」『Education in the School Library』4, 学校図書館教育研究会, 23-29, 2012

〔学会発表〕(計6件)

椋島香代、木村浩則、小林由利子、花輪充、山本直樹「授業を通じた保育者資質としての「表現力」の育成」日本乳幼児教育学会第24回大会自主シンポジウム, 於広島大学, 2014年11月29日

山本直樹「保育士養成校における劇的要素を含んだ「保育内容(表現)」の開講状況調査」全国保育士養成協議会第53回研究大会, 於ホテルニューオータニ博多, 2014年9月19日

山本直樹「保育者養成におけるドラマの活用(3) - 触ることからの発展 - 」日本保育学会第67回大会, 於大阪総合保育大学, 2014年5月17日

山本直樹「学生の主体的参加を促す保育内容(劇表現)の教材に関する研究」全国保育士養成協議会第52回研究大会, 於サンポートホール高松, 2013年9月6日

小林由利子、椋島香代、山本直樹「ドラマ/演劇による保育者養成プログラム」日本乳幼児教育学会第22回大会自主ラウンドテーブル, 於武庫川女子大学, 2012年12月9日

山本直樹「学生の内的メッセージを愛好歌から探る - 「劇表現指導法」の教材開発の手がかりとして - 」全国保育士養成協議会第51回研究大会, 於京都文教短期大学, 2012年9月7日

〔図書〕(計1件)

太田光洋他『乳幼児期から学童期への発達と教育』保育出版会, 2013(分担執筆: 62-82, 第5章子どもにとっての表現とは何か, 山本直樹)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~dramastudy/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

山本 直樹 (YAMAMOTO, Naoki)

有明教育芸術短期大学・子ども教育学科・准教授

研究者番号: 70586502